

団体名 **NPO法人こどもステーション**

見守り活動のタイトル：

食支援から活動に繋げ、子育ての孤立を防ぐ

キャッチコピー

子育て子育てを地域で応援！



代表 奥野しのぶ
住所 広島県福山市神辺町道上2862-1
連絡先 084-965-6625
ウェブサイト：<https://kodomostation.or.jp/>
団体活動開始：2011年12月22日



団体ホームページ

見守り活動の概要

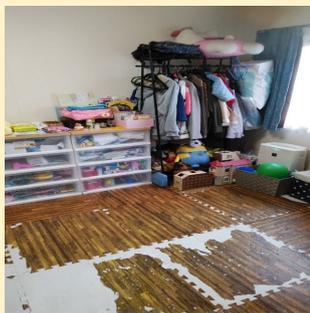
- ✓食品支援
 - ✓子どもへの直接的アプローチ
 - ✓整理収納アドバイス
 - ✓食事作り・家計管理
 - ✓相談・同行支援・アウトリーチ
- による見守り など

ひとり親家庭を始め、ステップファミリー、若年の母(シングルに限らず)の見守り支援を行っている。子育てひろばの特徴を活かし、ひろばでの託児を行って子どもを見守り、必要な相談や同行支援なども行っている。昨年度よりスタートした「整理収納アドバイス」では、当事者のお宅に出向き、直接家庭に入っでの支援となっている。また、託児や面会交流支援を通じて、子どもとの信頼関係も築き、子どもの気持ちを聞き取るなどのアドボケートを行っている。食品支援では、子ども食堂開催の他、フードパントリー、アウトリーチを行い相談やカウンセリングなどに繋げている。

見守りエピソード/ストーリー

面会交流を支援していた母子が再婚され、再婚相手との子どもが生まれると、母子の表情が暗くなっていった。再婚相手は、同伴児をスケープゴードにして母への抑圧を強めていた。しかし母は、育った環境の影響により、再婚相手から離れることを選択できないでいる。同伴児は元来明るい子であったが、養父からの暴言、母からの抑圧により、トラウマ的な症状が見られた。母はますます、「この子(同伴児)さえいなければ・・・」という思いが強くなっていった。当法人としては、面会交流支援に限らず、食品支援やカウンセリングなどの支援も行い、包括的に家族を支援していた。同伴児は母をかばおうとしていたが、母の携帯電話を使って、当法人へ直接電話をかけてくるようになった。母も助けを求めていた。同伴児は、「母と第2子の3人でどこかに行きたい」と言っていたが、結局、同伴児だけが養護施設に入所することになった。今は、第2子と母の安全のために、整理収納や相談などを行い、継続的に支援している。(許可を得て掲載しています)

活動写真



整理収納 Before After



食品支援 フードパントリー

見守り活動のポイント

- ・食品支援(子ども食堂・フードパントリーなど)は、目的ではなく手段です。その活動を通じて繋がることを目的とします。
- ・支援に対して苦情を言うことを大歓迎。社会とのコミュニケーションが作りやすく、子どもたちが家の中でしんどい思いをしていることのサインととらえる。
- ・支援者自身が抱え込まず、会として共有し、問題の発見・課題解決に向けてチームで取り組む。

見守り活動をはじめた背景

【子育て支援としてトラウマインフォームドケアの視点で】

●2012年5月よりスタートした「子育てひろば活動」の中で、困り感のある子育てを見守る中で、子どもの発達の問題、夫婦間の関係性(家族内暴力)の問題、母親の生育化された環境の問題が見えてきた。

また、2014年4月からスタートした「面会交流支援活動」の中から、子どもの発達の問題には、家族内の暴力の問題も密接に絡み合っている場合が多いことが見えてきた。

そこで、何かのきっかけでつながった家族に対し、トラウマインフォームドケアに視点で見守り、支援員それぞれが見えた課題(出来事)を出し合い、その後の支援の計画を見立てるようになっていった。

【子育てひろばのリサイクルコーナーから】

●子育てひろば開設当初から、ひろばと別室に「リサイクルコーナー」を設置して、利用者自身が不用品を持ち寄り、整理するなどのリサイクル活動が行われていた。その当時は、子ども服やマタニティグッズなどが中心で活動されていたが、2015年5月から「ひとり親支援活動(しんぐるまざあずカフェ)」をスタートしたところ、シングルマザー支援団体とつながったことで、「おてらおやつクラブ」を知りすぐに登録した。リサイクルコーナーに食品が集まってくるようになると、ひとり親家庭のママと支援員が個別に「食品支援」としてリサイクルコーナーを利用するようになっていった。そこで話し始めるひとり親家庭の経済的な困り感をあらためて突きつけられることになった。

それらをきっかけにして、シングルママをリサイクルコーナーに誘導し、個別に話をお聞きする・子どもは子育てひろばで別の支援員が託児を行う仕組みを作った。

対象／頻度／内容

(1) 面会交流支援

●対象者：面会交流支援を利用する親子(離婚・別居して父母のどちらか一方とは離れて暮らしている子どものいる世帯)

●対象世帯：34世帯／2022年度実績

●場所：子育てひろば、法人事務所、メール・LINE

●頻度：面会交流支援利用時(月1回など)、常時、必要あれば随時

●内容：経済的な貧困問題に対し食品支援を行う場合もあるが、過去のDVの影響による母の精神的回復のために相談支援(カウンセリング含む)を行っている。また、子どもに対しては心理教育、発達相談、トラウマ回復のための認知行動療法などにつなげている。

(2) 親と子の居場所／もこルーム・もこちゃんのおうち

●対象者：子育て世帯

●対象世帯：もこルーム45世帯・もこちゃんのおうち5世帯／いずれも2022年度実績

●場所：子育てひろば「もこルーム」・支援付きハウス「もこちゃんのおうち」

●頻度：「もこルーム」毎週月曜10時～16時、毎週金曜10時～12時・「もこちゃんのおうち」直接依頼のあった日(2022年度年間169日)

●内容：「もこルーム」居場所を提供し、利用している様子を見守りながら子育ての状況をお聞きし家庭での子育てを見守る。必要に応じて親は相談室、子はその場で託児を行い、個別相談に繋いでいる。

「もこちゃんのおうち」希望される方に1日1000円の利用料をいただき、希望に応じて支援を見立て、利用後もアフターフォローを行っている。

見守り活動において抱えている課題

- 相談依頼に対して、一人ひとりが満足いくように対応できているかどうか検証する必要があります。相談員の対応時間がボランティアの限界を超えていますので、人員を増やして、賃金が支払われる体制を作っていかなければ、どこかでバーンアウトしてしまいそうです。
- こどもステーション単体では解決が難しいケースも多く、行政などとうまく連携していきたいが、なかなか受け入れられず、団体で問題を抱えがちになっています。うまく連携して個別の問題を解決できる仕組みを構築していきたい。そのためにも行政との信頼関係がを積み上げていくことが課題です。

見守り活動を行う組織体制図

子育てひろば	ひろばボランティア
支援ハウス	DV／ひとり親家庭支援員
面会交流支援	面会交流支援員
保育サポート	保育サポーター
ひとり親家庭支援(居場所)	DV／ひとり親家庭支援員、託児ボランティア
ひとり親家庭(子ども食堂)	食堂コーディネーター、食堂ボランティア
食品支援	食品支援ボランティア
相談・同行支援	DV／ひとり親家庭支援員
カウンセリング・発達相談	カウンセラー／発達支援員
不登校の親の会	不登校相談員
整理収納・家計管理	整理収納アドバイザー
DV防止啓発	デートDV防止ファシリテーター

他団体との連携

(行政機関)

福山市若者・くらし相談課
福山市多様性社会推進課
福山市ネウボラ推進課
福山市生活福祉課
福山市スマイルねっと
福山市学びづくり課
福山市社会福祉協議会
福山市保健福祉局
福山市基幹相談支援センタークローバー
広島県子ども家庭課
広島県東部・西部子ども家庭センター
広島県福山家庭裁判所

(民間団体)

福山乳児院
認定NPO法人ハーモニーネット未来
NPO法人フードバンク
NPO法人おてらおやつクラブ
シングルマザーサポート団体全国協議会
一般社団法人面会交流支援全国協会
NPO法人どりのむスイッチ
福山市子ども食堂ネットワーク
広島子ども食堂ネットワーク
全国子ども食堂ネットワーク
財団法人ひろしま子ども夢財団
アウェア／アウェアFネット
NPO法人全国不登校新聞社